

会議録（要旨）

- 1 開会
- 2 あいさつ

（傍聴者の報告）事務局から傍聴者が0名であることが報告された。

3 実績報告会 八潮市協働のまちづくり推進事業助成金（資料1）

<事業報告>

「地名とまちづくりを考える『第3回方言漢字サミット』」

報告者：八潮の地名から学ぶ会

- ・昨年度より参加人数が減少し、八潮市以外の地域からの参加が多く、八潮市民の参加が少なかったことは反省点である。
- ・参加者から、内容が詰め込み過ぎとの意見があったので、次回は検討する。
- ・発足5年目となり、これから10年目を目指していくので、八潮市民の皆さんにも一緒に考えてほしい。
- ・漢字や文字の地域差を知ることは、地域の魅力に触れ、まちの文化遺産に気付くヒントを与え、歴史を知ることにつながり、その地域で暮らす意味を知ることができる。
- ・八潮市の「垢」は、地域の文化の象徴（シンボル）として資産に残して欲しい。
- ・第4回目は、テーマを「埼」として11月に予定しているので、今回の反省点を活かして開催したい。

<委員からの質問>

- ・アンケートで、八潮市内の参加者が26%というのは、少ないように思うが、広報はどのようにしたのか。
→（回答）様々な方法（公共施設へのチラシ、広報や新聞掲載等）で、やるだけのことはやったが、他の方法があればご教示いただきたい。
- ・会員の内、市内在住者の割合はどのくらいか。
→（回答）会員100人中、7：3で市内在住者の方が多いが、会員の中に温度差がある。今後、さらに意識啓発していきたい。

<委員長講評>

- ・「八潮の地名から学ぶ会」が熱意をもって、積極的に取り組んでいる様子が分かった。
- ・歴史文化の分野なので、資料館等と一緒に活動を展開できれば、広がりが出てくるのではないかと思う。

4 議事

- (1) 「八潮市協働のまちづくり推進事業助成金交付要綱」の改正について（資料2・3）事務局から審議資料（新旧対照表）に基づき、改正案について説明した。

<事務局から説明>

前回審議会で説明した内容に加えて、次の通り説明した。

- ・第10条（事業の実績報告）の報告の期限を、「2月15日」から「3月末日」に変更する。
- ・報告期限を変更することにより、実績報告会のスケジュールが変更（翌年度の審査会と同日）になることについて説明した。

<委員からの意見>

特になし

【まとめ】事務局で改正案を作成し、要綱改正の手続きを進める。

- (2) 「市民活動推進委員会提言書」の内容を具体化する方策について

<小委員会からの視察報告>（資料5）

【狛江市市民活動支援センター】

- ・人口約8万人の小さい市で、八潮市と近い感覚だった。
- ・位置的には、駅からは近いが、市役所や社会福祉協議会からは遠い。
- ・小さいスペースだが、何かやりたい人を支援していくという雰囲気があった。
- ・一緒にやっているという姿勢が見られる。
- ・市民参加型の3つの部会が特徴的だった。
- ・つなぎ役に徹している。
- ・広報が綺麗で、手に取りたくなるものだった。

【藤沢市市民活動推進センター】

- ・人口約43万人の市で、スケールが大きく、運営が活発であった。
- ・運営のサポートクラブ（様々な分野の専門家を取り入れている。）があり、相談業務を行っている。

【共通】

- ・場所貸しではなく、団体の自立支援に力を入れている。
- ・各センターとも、運営委員会の意見を参考に運営している。
- ・各市とも、センターをつくる前に条例をつくり、センターを設置している。
- ・キーワードは「自立支援」「つなぎ役」「一緒にやっていく」。

【感想】

- ・居場所としてではなく、皆さんを繋ぐ仕組みをつくることの大切さを感じた。
- ・八潮市は、繋げる仕組みが足りない。

<事務局からの説明>

八潮市の中間支援組織とは（資料6）

①各中間支援組織の比較

(施設、事業運営、情報収集提供・相談の項目ごとに比較)

②八潮市の中間支援組織について

(提言書の内容、審議会での意見を提示し、具体化する項目を洗い出す)

<委員からの意見>

②八潮市の中間支援組織について

「中間支援組織がなぜ必要か」

- ・さいたま市の「市民活動サポートセンター」に勤務した経験から、相談に来る人は、様々なレベルの人がいる。これから活動を始める人は、何を相談したら良いかわからない場合もある。また、既に活動している人には必要無い場合もあり、具体的なノウハウや情報を知りたい人もいる。それぞれ一緒に考え、市民活動のレベルアップ・後押しには、両方必要だ。
- ・支援を必要としている人を支援するとなると、経験の浅い団体を対象とすることになるが、設立して50年くらい経った団体で活動が停滞し、どうしてよいかかわからない団体などへのアドバイスをしてくれるところも必要だと思う。
- ・今、どこで何が求められているかわからない時に相談できる窓口があれば良い。
- ・地域で求められていることと、支援したい人がマッチングできる場所があると良い。
- ・市役所のどの窓口で相談すればよいか、教えてくれる場所があると良い。
- ・NPOがたくさんあると、直接行政でなく、自分たちで解決していくことができるので、そのNPOを支援していくような組織が必要だ。

「活動拠点の整備・拡充」

- ・八潮独自の環境や特徴を元にして、八潮市に必要な活動拠点を整備していくと良い。
- ・現時点で、新たな拠点施設を整備することや新庁舎（令和5年度以降完成予定）内に設置することは難しい。
- ・新庁舎には、市民が交流できるスペースをつくる予定ではあるが、今は現状あるものの中で議論し、新庁舎については+αで考える方が良い。
- ・市民協働推進課の窓口を充実した方が良い。
- ・社会福祉協議会は、災害ボランティアの窓口などもあり、今後災害時のことも考えると、市民活動支援コーナーとの一本化は難しいのではないかと考える。
- ・現在、市内で市民活動を支援する場としては、社会福祉協議会のボランティアセンターと楽習館の中の市民活動支援コーナーなので、市民活動支援コーナーを拡充し、専門職員や運営委員会を設置し、社会福祉協議会と連携していくことが現実的である。
- ・まず、楽習館（市民協働推進課）と市民活動支援コーナーの連携を強化し、

その後、社会福祉協議会のボランティアセンターと連携を強化することが望ましい。

- ・ 楽習館の運営（職員同士の連携、Wi-Fi・パソコン環境等）も改善されると良い。

「協働を推進・支援する組織」

- ・ 社会福祉協議会への委託は、現状では現実的ではない。
- ・ 現時点で、市内に中間支援組織を運営できるNPO法人は見受けられない。
- ・ 市民活動支援コーナーを拡充していくために、運営委員会を設置した方が良い。
- ・ 既存の団体は、何か事業をしようと思ってもなかなか進まないことが多い。様々な相談者に合わせて、一緒になって考えてくれたり、プロのアドバイスをしてもらえると良い。
- ・ 専門家を設置し、事業実施のサポートをしてもらえると良い。
- ・ 相談者に合わせた支援ができる体制があると良い。
- ・ 市民活動支援コーナーの職員に、ある程度権限を持たせ、効果的な相談業務ができると良い。
- ・ ターゲットを明確にすることも必要だ。
- ・ 「つなぎ役」「自立支援」「一緒にやっていく」という意識が大切。
- ・ 八潮市の実態調査をすることも必要だ。

【まとめ】

委員からの意見を参考に、事務局で次年度の審議内容を、より具体的に絞り込み、令和3年度第1回目の審議会で提示する。

【事務局より】

- ・ 次年度は、市民活動支援コーナーの充実・楽習館全体の運営の改善を含めて議論していただきたい。
- ・ 予算が関係するものについては期限もあるが、それに関わらず幅広く審議していただきたい。

5 その他

- ・ 今後のスケジュールについて

令和2年度 第1回市民活動推進委員会 令和2年5月20日（水）午後2時～

6 閉会